

今週の聖句

わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。

ヨハネによる福音書 15章 12節

ねらい

- ・ 父なる神がイエス様を愛し、イエス様が私たちが愛したように、私たちがお互いに愛し合うことをイエス様は望んでおられることをおぼえる。
- ・ 父がイエス様を愛し、イエス様が私たちが愛した愛について考える。

説教作成のヒント

- ・ ヨハネは、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」と「隣人を、自分のように愛しなさい」といういわゆる黄金律ではなく、「父なる神がイエスを愛し、イエスが私たちが愛したように、互いに愛し合いなさい」と言います。さらに日課に続く13-14節でイエスは「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。わたしの命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である」と言います。主は、十字架によって顕かにされた愛を、また十字架という生き方を生きようとして招いておられます。
- ・ 15章の日課に先立つ部分では、イエスがまことのぶどうの木であり、私たちが枝としてイエスにつながり、イエスもまた私たちに繋がっているとあります。日課の後の箇所は、17節の「互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である」という言葉によって結ばれます。ヨハネは、愛が一方的な動きではなく、関係の中に、相互に働くものであることを明らかにします。

豆知識

ヨハネによる福音書の特徴の一つとして、三位一体の神の中での大胆な与え合う運動、動きが挙げられます。父は子と聖霊にそのすべてを与え、子も父と聖霊に、聖霊も父と子にすべてを与えます。三位一体の三位格は、それぞれの持つすべてを相互に与え合うのです。そしてその運動の中に、私たちがもまた巻き込まれて行きます。

説教

平和って何でしょう。8月は、日本という国にとって、平和を考える一つの機会となっています。それは、昭和20年の8月に、終戦を迎えたからです。あなたにとって、平和とは何ですか。

平和が、心穏やかに過ごすことであるとすれば、その方法はいくつかあります。一つは、心が穏やかになれないような危険を取り除くことです。2001年9月11日にアメリカで起きた同時多発テロの後、世界は平和・安心を、危険を取り除くことによって得ようとしていました。自分と違う考えを持ち、行動をする人、文化、宗教を取り除き、同じような考えを持つ人たちばかりが集まってグループをつくったのです。世界は平和になったのでしょうか。

平和を実現する方法の一つ目が、社会にあってグループでのものであるとすれば、個人としての方法もあります。それは、自分と他人との干渉を断つということです。他の人が何を考え、何をしても関係がない、気にもしないということです。これはたとえば、友だちと喧嘩して、絶交をすることに似ているかもしれません。そこにいる友だちがいないように振る舞うのです。しかし、それで本当に平和になるのでしょうか。

危険を取り除いても、気に入らないことを自分の中から締め出してみても、結局平和や安心は得ら

れません。なぜなら、そこに働いている思いは、自分の持っているものを自分だけのものとして、占有するということだからです。自分が持っているものを奪われたくないということだからです。しかし、今日の聖書でイエスは、父がイエスを愛したように、そしてイエスが弟子たちを愛したように、弟子たちがお互いを愛するようにと言います。父はイエスにすべてを与え、イエスは弟子たちに、十字架の上で御自分の生命さえ与えました。そしてそのような愛をもってお互いに愛するようにと言うのです。

弟子たちへの言葉は、私たちへの言葉です。イエスは私たちに、自分のすべてを与えるような愛をもって、そして一人が一方的に愛するのではなく、お互いに愛するようにと言います。そうすることによって、私たちはキリストの思いを、神さまの思いを、つまり私たちがまことの平和を生きるということを実現する器として用いられていきます。

みなさんは、そんなこと、自分にはできないと思うでしょうか。日課に続く箇所ではイエスは、次のように言います。「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ（15:16）。イエスがみなさんを選んだのです。だから、大丈夫、そのようなイエスの約束を信じ、お互いに愛し合う生き方を生きましょう。

## 分級への展開

さんびしよう

\* 讃美歌は " こどもさんびか " (日キ版) より

77番

改訂125番

話してみよう

・平和の反対は？書き出してみよう。

「平和の反対」からみえてくる「平和」を書き出してみよう。

・見えてきた「平和」をもとに、自分の友達、自分の家族、自分の町、自分の国、自分の世界は「平和」かどうか考えてみよう、その理由も。

・「互いに愛し合う」ことって難しい？簡単？その理由も考えよう。



暗唱聖句

天の国はからし種に似ている

マタイによる福音書 13章 31節

ねらい

- ・ 天の国とはいわゆる天国のことではない。そのことを確認し、子どもたちが聖書のいう天の国とは何かを考える、また考えはじめる。
- ・ 天の国は、簡単に言えば、神との正しい関係のうちに生きるということである。そのことを踏まえて、子どもたちが自分と神の関係について考えはじめる。
- ・ 天の国が、からし種やパン種のように大きく成長するものであるということを理解する。

説教作成のヒント

- ・ 天の国は、死後の世界になってしまったり、抽象的な概念になってしまったりしがちです。しかし、天の国はむしろ、今ここに生きている私たちが誰であるかという、アイデンティティに関わる問題です。
- ・ 天の国とは神を王としてその支配の下に生きるということですが、簡単に言えば、神と人間との関係概念であり、正しい関係に生きているかどうかということです。王制を持つ国の話や、自分の家族など、いろいろな仕方に関係について考えることができるでしょう。そしてそうすることによって、天の国が子どもたちにとって具体性を持つことでしょう。

豆知識

- ・ 毒麦は麦畑、路傍、荒地に生えるいね科の雑草です。生育の初期段階では、麦との区別が難しいと言われる。毒麦という名前はありますが、種子自体には毒はありません。しかし、寄生するカビが有毒なアルカロイドを作るため、寄生された毒麦は毒性を持ち、これが混じった麦の粉でパンをつくると中毒を引き起こします。(田中善正著、『聖書の植物』参照)
- ・ からし種は、あぶらな科のからしなの種です。新約聖書の時代にパレスチナで知られていたからしなの種子は、日本のからしなの種子よりも小さく、発芽すると速やかに成長して2メートル、大きなものは4メートルほどになります。秋には茎が木のように硬くなって、小鳥の重さに耐えるほどに強くなります。当時の人々の知っている種子の中では、最も小さいものだったのでしょう(田中善正著、『聖書の植物』参照)

説教

みなさんは、天の国と聞いて、何を思い浮かべますか。天国や、死んだ人が行く世界でしょうか。それとも、別の何かでしょうか。今日は、この天の国について一緒に考えてみましょう。

イエスの宣べ伝える天の国は、天国や、死後の世界ではありません。イエスは、天の国は人間がいつか行くところだとは言っていない。むしろ、今このとき、私たちのところに近づいていると言います。「悔い改めよ。天の国は近づいた」(マタイ 4:17)。イエスはこのように人々に語りました。天の国が近づいたということが、イエスのメッセージの中心でした。しかし、天の国とは何なのでしょう。

天の国は、天の支配や神の支配、また神の王国とも言われます。日本には王はいませんし、選挙によっていろいろなことを決める民主主義の制度がありますので、王国と聞いてもピンと来ないかもしれません。ですから、家族で考えてみることにしましょう。みなさんは、自分が自分の家族の一員だと感じる時がありますか。家族の誰かに顔が似ているのでしょうか。仕草が似ているのでしょうか。食べ物の好き嫌いや、

味の好みが似ているでしょうか。生活の習慣が似ているでしょうか。自分にとって大切なもの、価値のあるもの、難しい言葉で「価値観」と言いますが、それが似ているでしょうか。小さいころは、自分や自分の家族と、友だちやその家族が同じようだと思うことが多いかもしれません。しかし、年齢を重ねて、一人で友だちの家に行ったりすると、自分の家と友だちの家では、いろいろと違うことがあることに気がつくようになります。そしておそらく、友だちの家や家族のやり方よりも、自分の家や家族のやり方がしっくりと来たり、落ち着いた気持ちになったりすることでしょう。また、家族には、家族の一員としての期待や責任もあります。たとえば、何か間違っただけをして怒られてしまうことがあるとします。そのときはいやな気持ちであっても、なぜ怒られたのかを理解し、納得できたりするかもしれません。そして、ああ、自分はこの家の子ども、この家族の一員なんだと感じることでしょう。天の国も、これと同じです。神さまを王とするということは、神さまの子どもとして、神さまの家族の一員として生きるということです。神さまの子どもとしての神さまに期待され、責任を持って生きるということです。最初は、みなさんが小さかったときのように、そのことにあまり気が付かないかもしれません。しかし、成長するに従って、自分は神さまの子どもであって、神さまの家族の一員だという思いが自分の中で強く、大きくなっていくことでしょう。それは、小さい小さいからし種が、植えて芽が出るとすぐに大きくなって、小鳥たちが枝で休むことができるようになることに似ています。「私は神さまの子どもです」という思いは、最初は小さくても、成長すると共にみなさんの中で大きなものとなっていくのです。

## 分級への展開

さんびしよう

\* 讚美歌は”こどもさんびか”(日キ版)より

10番 改訂59番

話してみよう

からし種について調べよう(聖書植物図鑑やインターネットを使って)。

かべ新聞をつくって教会の掲示板に貼ろう!

- ・イエス様は何故そんなことを言ったんだろう?
- ・天の国とは、神の国、神さまがいる所、神さまが支配している国のことです。

イエスさまは、人々や弟子たちに天の国についてこのように繰り返し色んなところで話しましたが、これを聞いた人々はどんな風を感じたのでしょうか?想像してみましよう。

やってみよう

からし種は目に見えないような小さな種だけど大きな力を持っています!

いろいろな形や大きさの葉っぱを採ってこよう!

木の葉に紙を重ねて、クレヨンや濃い鉛筆や色鉛筆でこすり出してみましよう。

葉っぱの形や模様が出てきましたか?

見えないものが見えるようになりますね!

今日のみことばを書いてしおりにするとずっと使えます!

小さい物がやがて大きくなるもの、大きく育つもの、大きく成長するものを考えて紙に書き出してみましよう。どんなものがあるかな?

暗唱聖句

出かけて行って持ち物を全部売り払い、それを買う。

マタイによる福音書 13章 46節

ねらい

- ・ 天の国は、なにものにも比べることができないほどに価値のあるものであると理解する。
- ・ 神さまは、私たちがなにものにも比べることができないほどに価値のあるものとして愛してくださっているということを理解する。

説教作成のヒント

- ・ 天の国の価値はどれほどのもののでしょうか。たとえば、その価値は比較できないほどのものであり、持ち物のすべてを投げ打ってさえも手に入れたいと思うものであると言われます。子どもたちにとって、天の国とその価値を理解することは難しいでしょう。しかし、それが自分にとって何か大切なものであるということを感じることができればいいのではないのでしょうか。
- ・ 天の国の価値は、そのまま神さまが私たちのことをどう考えておられるのかを伝えていきます。私たちがすべてを投げ打ってさえも求めるように、神さまもまた、ご自分のすべてを十字架で投げ打ってさえも私たちを宝として望んでおられるのです。

豆知識

- ・ 日課の「天の国のたとえ」はどれも、マタイによる福音書だけに見られるものです。最初の二つは、天の国を宝や真珠にたとえてその価値について伝え、最後の一つは、正しい者と悪い者との選別について伝えます。前回の日課の「毒麦のたとえ」もそうですが、マタイは、終わりの時になされる裁きを強調します。
- ・ 真珠は、聖書の中に登場する高価な装飾品の一つです（I テモテ 2:9）。旧約聖書では「真珠よりも知恵は得がたい」（ヨブ記 28:18）とまで言われ、その価値の高さが分かります。黙示録の中では、真珠はバビロンとの関わりの中で負のイメージで語られています（17:4; 18:12, 16）が、同時に新しいエルサレムの門に使われるとも言います（21:21）。

説教

みなさんは、何かを心の底から欲しいと思ったことはありますか。自分の持っているものすべてと交換してもいい、大切なもの、大事なものさえも惜しくないというほどに、何かを欲しいと思ったことはあるでしょうか。デパートやおもちゃ屋などで、小さい子どもがお父さんやお母さんに欲しいものを買ってくれるようにと駄々をこねているのを見たことがあるかもしれません。そのとき「自分も小さいときはああだったのかな」と思ったりするのでしょうか。その小さい子は、欲しいものが手に入るのなら他の人の目も気にならないし、わがままな子どものように振る舞うこともできてしまう、親を困らせてしまう、それほどまでに欲しいと思う何かが、そしてその何かにはその価値が、少なくともその子にとってはあるのです。みなさんには、そのように何かを欲しいと思った経験が、何かそれだけの価値があると思った経験があるのでしょうか。

聖書は、天の国はそのようなものであると言います。それが手に入るのなら、自分の持っているすべてを手放してもいいと思うほどに価値あるものであると言うのです。畑や土地を買うとき、少しでも安く手に入れようとしないでしょうか。しかし聖書は、天の国は、そのようにゆっくり取引している暇はないと言います。その畑には、それほどまでに価値のある宝が埋まっているからです。宝石商

が、素晴らしい真珠を見つけたら、持ち物をすべて売っても、その真珠を買うと言います。その真珠には、それ以上の価値があるからです。天の国とは、私たちにとって、みなさんにとって、それほどまでに価値のある宝であると、聖書は言っています。同時に、神さまにとってみなさんは、同じように価値のある宝であることを知っていますか。

神さまは、イスラエルの人たちを、ご自分の宝だと言いました（出エジプト 19:5）。そしてその言葉は、私たちにも向けられています。みなさんは、神さまの宝なのです。そしてその宝のために、神さまはご自分の持っているすべてを犠牲にしてもいいと思われました。神さまは人となりました。そして、十字架の上で、ご自分の生命さえも差し出して、宝である私たちを手に入れようとされました。天の国とは、そのような神さまの子どもとして、そのような神さまの家族の一員として生きるということです。すべてのものを投げ打っても手に入れるべき宝である天の国は、神さまご自身が十字架で頭かんにしてくださいました。みなさんは、みなさんのためにすべてのものを犠牲にくださった神さまの子どもであり、その家族の一人です。みなさんは、神さまにとってそれほどまでに価値があるのです。

## 分級への展開

さんびしよう

\* 讚美歌は ” こどもさんびか ” (日キ版) より

1 番 改訂 8 番

話してみよう

- ・ みんなにとっての宝物って何？ じゃあ、一番欲しいものって何？  
みんながもってる宝物と全部交換しても欲しいものってある？
- ・ 13 章 47 節 - 50 節や 36 節 - 43 節を読んでみましょう。イエスさまは、天の国についてこのように厳しいことも話されました。天の国のことが分かっている人と、全く知らない人の人生にはどんな違いがあると思いますか？

やってみよう

ゲーム 身につけているものはなあに？

- ・ 「はじめ」の合図で 1 点ずつ身につけているものを順に並べていきます。  
スタートラインを決めておくとよいでしょう。  
それぞれのものは必ず接触していなければいけません。  
並べ終わったらその長さをみんなで見比べてみましょう。
- ・ そして・・・  
「たくさん並んだね！ではここからが本番！並べたものをもって全部身につけていきます。合図で一斉にとりかかります。早くもとどおりになった人から宝（宝と書いた紙をはったキャンディなどを準備しておく）を貰うことができます。がんばって下さい！」  
身につけていたものがたくさんあって並べて長かった人は今度は身につける時時間がかかりますね。今日ここでは宝をキャンディにして子どもたちの楽しみのもにしました。  
みことばからその宝や真珠はイエスキリストであることを覚え、お祈りして終わらしましょう。

暗唱聖句

すべての人が食べて満腹した。

マタイによる福音書 14章 20節

ねらい、

- ・ 私たちは皆、神さまによって養われ、神さまのみによって満たされるということを知る。
- ・ 奇跡の背後にある、イエスの人々に対する心、思いを知る。

説教作成のヒント

- ・ 女性や子どもを除いて五千人にものぼる人たちに食べ物を与える話は、不思議な業、奇跡です。ヨハネはこの奇跡をしるしと呼び、イエスがキリストであるということを顕かにすると考えました。マタイはしるしという言葉は使いませんが、やはり同じように考えていたのではないのでしょうか。そうだとすると、この奇跡から私たちは、イエスがどのような方であると知ることができるのでしょうか。そのことに注意する必要があります。
- ・ イエスは奇跡に先立ち、群衆を見て深く憐れまれました。奇跡はその憐みの心の現れです。神は私たちを憐み、私たちに必要なものを与えてくださる方です。
- ・ 大人として、理性的に物事を捉える私たちへの危険は、奇跡をそのままに受け止めず、現実的な説明をつけて何かいい話にしてしまおうという誘惑です。しかし、そのような理性的な理解は脇に置いて、むしろその奇跡に込められた意味を真摯に求める姿勢が必要です。

豆知識

- ・ 五千人に食べ物を与える話は、四つの福音書すべてに記述がある奇跡です。(ちなみに、マタイとマルコはさらに、四千人に食べ物を与える話を記録しています。)
- ・ 五千人の男たち、それに女性や子どもたちを加えた多くの人たちが、5つのパンと2匹の魚によって満腹させられました。興味深いことに、余ったパンは、最初からあったものよりも多くありました。キリストは、惜しみなく、豊かに与える方であることが示されています。また、12の籠は、イスラエル12部族を示しているとも言われます。
- ・ イエスが群衆を見て「深く憐れ」まれたことを表すのは、ギリシア語ではスブラグニゾマイという動詞でした。これは、腸が痛むということ、つまり断腸の思いだということです。イエスは群衆を見て、深く苦しみます。さらに、誰と食事をするかということがその人物の社会的立場を示す時代にあって、イエスは群衆たちと共に食事をしました。つまりイエスは、私たちを見て、腸が千切れるような思いを抱き、私たちと共に苦しみ、私たちと同じ者として、同じ場所に立つことを厭わず、むしろ望んでおられることが分かります。

説教

みなさんは、今日の聖書の話聞いてどう思いましたか。もし自分が弟子たちの一人で、イエスに「あなたがたが彼らに食べる物を与えなさい」と言われたら、どうしたでしょう。イエスはいったい、弟子たちを困らせようとしてこう言ったのでしょうか。みなさんが弟子だったら、どう感じたでしょう。

多くの人たちがイエスの後を追って、会いに来ました。男性だけで五千人、女性と子どもたちを加えたら、もしかしたらその倍くらいの人たちがいたかもしれません。彼ら、彼女らは、イエスを追って人里離れたところにまでついてきました。イエスはその人たちを見て、「深く憐れ」んだと言います。そして、彼らのところに行って、病人たちを癒したり、話をしたりしたのでしょうか。気が付くと夕暮れになっていました。弟子たちは

思います。こんなに大勢の人たちの分まで食料はないぞ。どうしよう。そうだ、この人たちを解散させて、各自で食べる物を手に入れてもらおう。これは、悪い考えではないかもしれません。少なくとも、それぞれが自分で自分の責任を持ってもらおうということです。でも、考えてみてください。一万人もの人たちが人里離れたところにおいて、夕暮れに突然解散させられたとしたら、ちゃんとみんな食べる物を手に入れることができるのでしょうか。元気な人たちは、近くの村や町に行き、そこで食べる物を買えるかもしれません。しかし、老人や子どもたち、体力のない人たちはどうでしょうか。彼らが近くの村や町に着くころには、そこにある食料はおそらく売り切れていることでしょうか。もともと、一万人もの人たちに行き渡るほどの量の食べ物を売っている店などないからです。元気な人から近くで食べる物を手に入れられるとすれば、反対に、もっとも弱っている人たちがもっとも長い距離を歩いて食べる物を手に入れなければいけないことになります。もしかしたら、手に入れる前にあきらめてしまうかもしれません。弟子たちの解決策は、決して非常識なものではなく、むしろ常識的なものでした。しかしイエスは、その解決策では辛い思いをし、苦しむ人が出てしまうことを知っていて、その人たちのことを無視することができませんでした。イエスはどうしたでしょう。彼は、人々を解散させる代わりに草の上に座らせ、そこにあったパン五つと魚二匹を取ると、祈ってからこれを配り始めました。五つのパンと二匹の魚は、そこにいた人たち全員が満腹になるほど行き渡って、さらに余ったパンを集めると、最初よりも多く残りました。

この話はいったい何を伝えようとしているのでしょうか。それは、神さまは、いつもみなさんのことを気にかけて、みなさんが苦しいときには一緒に苦しみ、さらにみなさんに必要なものを惜しみなく与えてくださるということです。神さまはじつに、十字架で、ご自分さえもみなさんに与えてくださったのです。みなさんの神さまは、そういうお方です。

#### 分級への展開

さんびしよう

\* 讚美歌は”こどもさんびか”(日キ版)より

104番 改訂21番

話してみよう

・夕暮れになっても、お腹がすいても、イエスさまのもとから家へ戻っていかなくなった群衆の気持ちを想像してみましよう。人々は、何故家に帰らな かったのでしょうか？人々は何を求めていたのでしょうか？

・5つのパンと2匹の魚を実際にみんなで分けてみましよう、もちろん5000人もいないので、分け合う人たちの人数を5000で割って、その分量を分け合います。群衆が食べた(かもしれない)パンと魚を体験してみましよう、そして何故それでも満腹したのか考えてみましよう。

やってみよう

実際に増えることはないけれど、みんなで分け合う体験をしていただきましよう。

準備するもの：パン5つ、魚(めざしや干物でもよい)2匹

・出席者全員の人数分を分ける。大人がすぐに分けてしまわないで、みんなで分けるにはどうしたらいいか考えるようにしましよう。例えば・・・身体大きさを考慮して分けるとか、それぞれが今食べたい欲求度に応じた分け方とか、均等に分けるか...どんな順番で分けるかも含めて。

そして「イエスさま、いっしょにいてくださってありがとうございます」と言ってから食べましよう。

暗唱聖句

信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか。

マタイによる福音書 14章 31節

ねらい

- ・ 信仰とは、知識ではなく生き方である。委ねて、神さまへの信頼のうちに生きることである。そのことを子どもたちと分かち合う。
- ・ 信頼することとはどういうことであるのかを、ペトロの話を通して考えてみる。

説教作成のヒント

- ・ 信仰とは何でしょう。教会が教える知識を理解し、また受け入れることでしょうか。日課は、信仰がどういものであるかを明らかにします。信仰とは、自分を委ねることのできる信頼関係に生きるということなのです。
- ・ ペトロはイエスを信頼し、舟から出て水の上を歩き始めました。しかし、他のことが気になってしまい、信仰、信頼が揺れてしまいます。私たちの人生においても、神さまを信頼し、しかし迷い、疑うときもあります。子どもたちもまた、神さまに対して、親に対して、友だちに対してそういう経験をしているのではないのでしょうか。
- ・ 神さまはいつもそばにいて、私たちの信仰が薄いと言われるときであっても、すぐに手を伸ばして助けてくださるお方です。その約束を伝えるようにしましょう。

豆知識

- ・ ここで語られる奇跡は、イエスがどのようなお方かということを顕かにします。最後の告白にあるように、この奇跡を通して弟子たちは、イエスが「神の子」であることを知り、神として「拝」みます。水の上を歩くということは、イエスが自然の力を超えた存在であることを示すのです。
- ・ 疑うということはいけないことでしょうか。神さまに疑問を持つことは悪いことでしょうか。疑問を持つことは、決して悪いことではありません。しかし、疑うということは、二つの可能性があれば、一つの可能性に傾くこと、それもネガティブな方向に傾くことです。つまり、できない、できるはずがないという結論に傾くことです。なぜ疑ったのか、というイエスの質問には、なぜできない、できるはずがないと疑ったのかという意味が込められています。神にあっては、すべてのことが可能です。イエスはそう言います。

説教

みなさんは、バンジージャンプをしたことありますか。何も考えずに思い切り飛べばあっという間ですが、飛ぶ前に余計なことを考えると、恐くて足がすくんでしまい、飛ぶことができなくなってしまうことがあります。また、夏になると、プールや湖で小さい子どもが水に飛び込もうとしている姿を見ることがあります。水の中にはお父さんやお母さんが手を広げて待っています。しかし、はじめて水に飛び込む子どもは、恐怖と戦います。水の中で待っているお父さんやお母さんの腕の中に飛び込みたいという思い、そして必ず受け止めてくれるという信頼がありますが、同時に、はじめてのために恐怖があるのです。大抵の子どもたちは、時間がかかっても最後には飛び込むことができ、飛び込んだ次の瞬間にはお父さんやお母さんにしっかり抱きとめられている自分を見つけます。恐怖よりも、お父さんやお母さんへの思いが強かったのでしょうか。子どもが飛び込むためには、水ではなく、飛び込む高さでもなく、飛び込んで行く先、大好きなお父さんやお母さんだけをしっかりと見ることが重要です。みなさんも、そのような経験をしたことがあるでしょうか。

今日の聖書の箇所は、イエスが水の上を歩いて弟子たちの前に現れたと言います。このイエスに対してペトロは、水の上を歩いてイエスのところへ行けるようにと願い、イエスにそう命令するようにと頼みます。ペトロは舟を出て、「来なさい」というイエスに向かって歩き始めます。ペトロは、イエスだけを見つめて一歩、二歩と順調に進みます。しかし途中でペトロは、風が強く吹いていることに気が付いてしまいました。イエスだけを見つめ、集中することができずに、他のことに気をとられてしまうのです。するとペトロの心の中には、それまでなかった恐怖が起きました。そして、その恐怖が増えるにしたがって、水の中に沈んでいく自分に気が付きます。ペトロは叫びました。「主よ、助けてください。」イエスはすぐに手を伸ばしておぼれそうになるペトロを捕まえます。そして言いました。「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか。」

ペトロは、最初イエスを信頼して歩き出しました。しかし途中で、疑いが芽生えてしまいます。イエス以外のもの、強い風が目に入ったのです。すると次に、その風に煽られる高い波が目に入ります。自分はおぼれてしまうのではないかと、そう思ったのでしょうか。イエスを信頼し、イエスだけを見つめて進むことができなくなってしまいました。みなさんも、ペトロのように感じる時があるかもしれません。神さまを信頼し、しかし不安もあって、二つの間で揺れ動くのです。しかし神さまは、水の中で私たちを受け止めてくれる親のような方です。すぐに手を伸ばして助けてくださるイエスのような方です。不安になったら、思い出してください。神さまがそばにいて、必ず助けてくれると。だから思い切って歩き出し、また飛び込んでみましょう。

#### 分級への展開

さんびしよう

\* 讚美歌は”こどもさんびか”(日キ版)より

119番

改訂114番

話してみよう

・逆風のために波に悩まされていた弟子たちの姿を思い浮かべてみよう、この時、弟子たちはどんな気持ちだったでしょうか？

・みんなはどんなときに怖くなったり、不安になったりしますか？

同じ状況で、誰か傍にいれば怖くなかったり、不安にならなかつたりしますか？

・それでは何故、ペトロはイエス様が傍にいたのに助けを求めたのでしょうか？

やってみよう

今日のみことばは、ペテロがおぼれた時すぐに手を伸ばして捕まえて下さったイエスさまが支えてつながっておられ励まされている愛の言葉です。支えられ、つながっていることを体験しましょう。

シーツ又は毛布に1人が寝てみんなでシーツの回りを持って、ゆっくり持ち上げたり優しくゆすってみましょう。人間ゆりかごでもよいでしょう。一人の人を落ちないように手足をしっかり持って、優しくゆすりましょう。大人が必ず入って頭など怪我をしないようにやりましょう。

してもらう人はリラックスしてこうたいして全員しましょう。してもらう体験をして疑わないで人とのつながりや信頼、心地いい気持ちを味わいましょう。

{おまけ}地面に線を引いた上を目隠しして歩いてみましょう。室内だったらビニールテープなどで真っすぐな線やちょっとぐにゃぐにゃ線を引いてその上を歩いてみましょう。先が見えてわかっていると安心ですが、先が見えないとその通りになかなか歩けないですね。これも体験してみましょう！